

第33回人権と報道を考えるシンポジウム

森友・加計疑獄と報道

——ゆがめられた行政を監視する責任

12月17日(日)午後1時半～5時

会場：スペースたんぽぽ／裏面に地図 参加費：500円／事前申込不要

【パネリスト】

- ▼木村 真さん（森友学園問題を考える市民の会共同代表・豊中市議）
- ▼黒川 敦彦さん（加計獣医学部問題を考える会共同代表）
- ▼望月衣塑子さん（東京新聞社会部記者）
- ▼浅野 健一さん（同志社大学教授・人報連世話人・元共同通信記者）

【司会】

- ◇山際 永三さん（人権と報道・連絡会事務局長・映画監督）

シンポジウムの趣旨

安倍自民党の恥部「森友・加計疑獄」の追及に関して、まずは地元で問題を提起し闘ってこられた方々の報告を受けることが重要です。

木村真さんは昨年、豊中市の国有地に教育勅語を幼稚園児に唱和させる学校法人の「安倍晋三記念小学校」が建設されることに対していち早く反対運動を開始、土地の売却額を非開示とした処分を取り消し訴訟を進めるなかで、朝日新聞が「8億円値引き」をスクープ、安倍首相夫妻の積極的関与を籠池理事長が国会で証言し大きな疑獄事件に発展しました。

週刊誌報道に端を発し、国会でも問題となった愛媛県今治市の加計獣医学部問題、前文科省次官前川氏が行政のねじ曲げを批判、東京新聞の望月記者は菅官房長官に対して質問ぜめを敢行、調査報道しました。その後の加計疑獄は、どうなっているのか？ どうなるべきなのか？

国会でウソをつき続けた佐川理財局長は栄転、安倍昭恵夫人・加計孝太郎氏は一切証言しない態度です。これでいいのか？ 一方籠池氏夫妻は逮捕されて百万円の授受はもみ消されそうです。こんな誤魔化しを許してはなりません。報道し続けることがメディアの責任です。

主催：人権と報道・連絡会